

信濃教育会「学び創造研究会」研究大会のご案内

向寒の候、みなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は、信濃教育会学び創造研究会への申込みをしていただき、ありがとうございました。当日の日程を下記のように計画いたしました。ご確認のほどよろしくお願いいたします。

記

- 1 日 時 令和7年11月28日（金） 13:40～16:50
- 2 会 場 小布施町立栗ガ丘小学校
- 3 共同研究者 信州大学教育学部教育科学准教授 佐藤 和紀 様
- 4 授業者 小林 大真 教諭
- 5 日 程
 - (1) 受付 13:20～13:35 【2階昇降口】
 - (2) 開会行事 13:40～13:55 【視聴覚室】
 - ①主催者挨拶 信濃教育会総務・会計部 部長 清水 恒善 様
 - ②会場校挨拶 栗ガ丘小学校長 新井 重則
 - ③諸連絡
 - (3) 公開授業 14:05～14:50 【5年2組教室】
 - (4) 座談会 15:00～15:45 【視聴覚室】
 - (5) 講演会 15:50～16:35 【視聴覚室】

講師 信州大学教育学部教育科学准教授 佐藤 和紀 様
 - (6) 閉会行事 16:40～16:50 【視聴覚室】
 - ①会場校挨拶 栗ガ丘小学校長 新井 重則
 - ②諸連絡
- 6 その他
 - (1) 駐車場は来賓の皆様は来賓駐車場、一般の方は文化体育館駐車場をご利用ください。（別紙参照）
 - (2) 上履きをご持参の上、2階昇降口からお入りください。控室は昇降口正面の視聴覚室です。
 - (3) 資料は以下のリンクまたはQRコードからご参照ください。
https://docs.google.com/spreadsheets/d/12yUKqKiHhq_5ECT1e0mSqlJl1tkU0B4my50yNMaouahI/edit?usp=sharing
 - (4) 事前に「研究授業 Google Chat」への参加登録へのご登録を以下のリンクまたはQRコードからお願いします。
<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe3fuS0pyUTYjDT0sB61bah8ynDY0LNbs19JZ3N-k94GWG9CA/viewform?usp=sharing&oid=105767314693029647346>
 - (5) 参観後、感想記入を以下のリンクまたはQRコードからお願いします。
<https://forms.gle/fb5NcZX75CEEg6y8>



(3) 資料参照



(4) Google Chat 事前登録



(5) 感想記入

小布施町立栗ガ丘小学校

小布施のメイン道路の1本西側の道路沿い

栗ガ丘小学校 学校案内図



学校周辺 拡大図



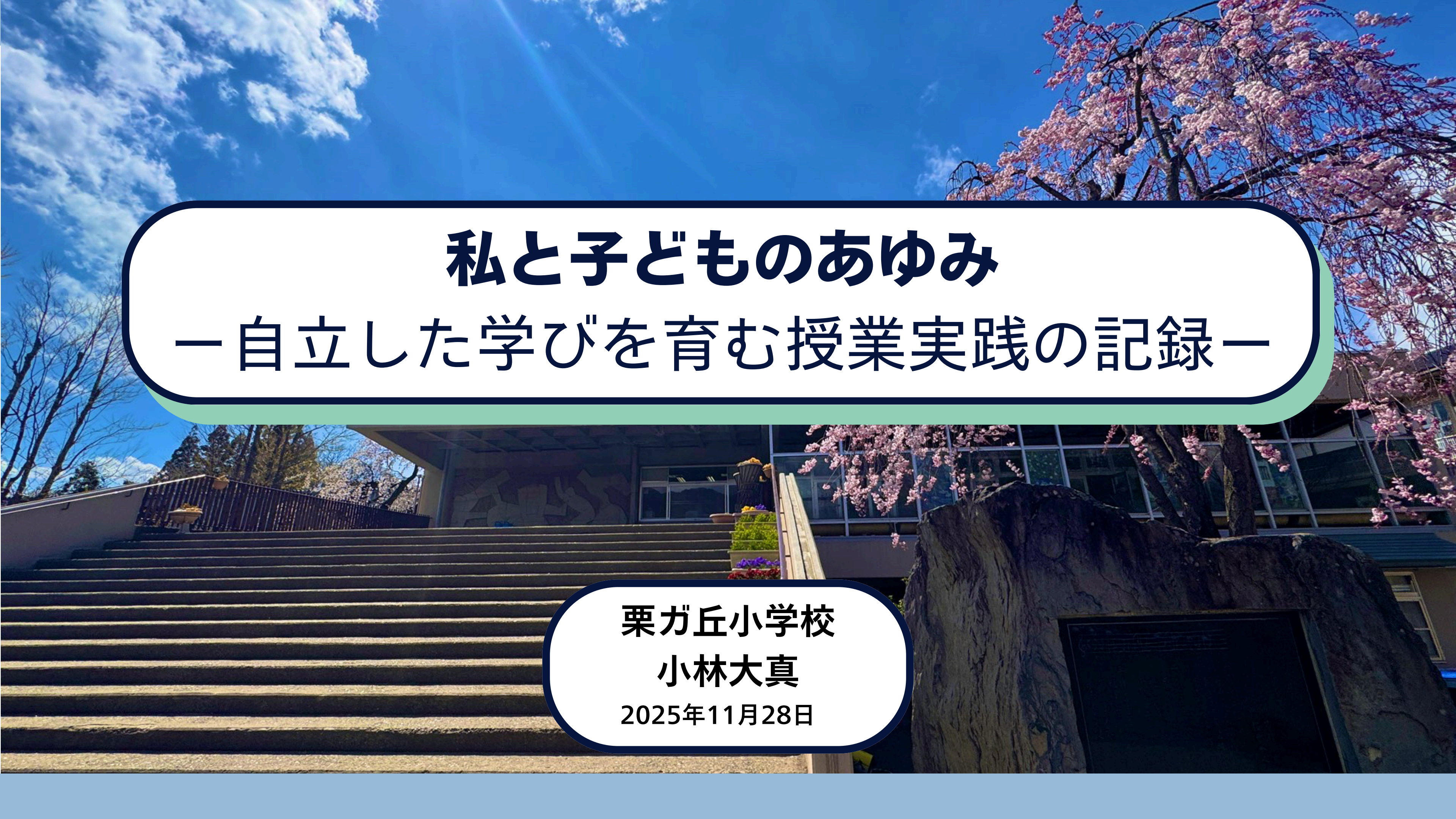
文化体育館裏とコンテナ室前の空いているところへ駐車をお願いします。
(ゼブラゾーンは駐車禁止です)



また、入口は2階昇降口になりますので、矢印のように校舎正面に回ってください。
控室は、2階昇降口に入って正面にある視聴覚室です。



お気をつけてご来校ください。



私と子どものあゆみ

— 自立した学びを育む授業実践の記録 —

栗ガ丘小学校
小林大真

2025年11月28日

子どもたちが 自信を持って未来を歩んでほしい

これが、私が教師として最も大切にしている願いであり
今年度の授業研究の出発点

不安定な社会にこれから踏み出す子どもたちには、
自ら問いを立て、考え、そして学び続ける力が不可欠です

研究テーマ

自立した学び ～子ども自ら学ぶための教師の支援とは～

目指したもの

教師主導から子ども主体の学びへの転換
一人ひとりの子どもに応じた最適な支援のあり方
子どもが「学びたい」と思える学習環境の創造
自ら学び続ける力を育む教師の関わり方

第1部

研究の出発点

前任校での挑戦と課題

挑戦したこと

- ✓ GiGAスクール構想のもと、ICT活用授業
- ✓ 先進校視察と新しい授業方法の導入
- ✓ 個別最適な学びと協働的な学びの実践



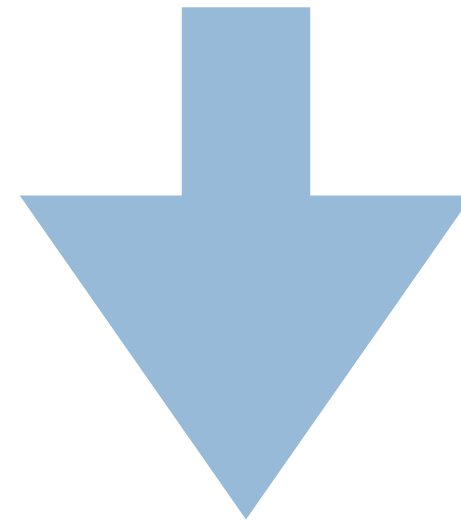
しかし・・・

- ✗ 模倣の域を出ない実践
- ✗ 本質的な授業改革になっていない
- ✗ 子供の学びが 表面的 一時的



栗ガ丘小学校でも同じ壁に

- ・ 知識獲得で終わってしまう
- ・ 活動の楽しさで学びが浅くなる
- ・ 協働のメリットとデメリット



どうすれば子どもたちが自立的に学びを深められるのか。

第2部

共同研究者 佐藤先生 との対話から

4月 「型」から「個」へ

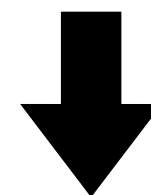
佐藤先生からの一言

「一人ひとりを どう支援していくか」

気づき： 無意識に自分の「型」に子どもをはめていた
一人ひとりを見ることができていない と痛感

意識の転換

- ・ 誰が何を学びたいのか
- ・ その子の性格 今日の気持ち
- ・ 今何に困りそうか
- ・ どのように学びたいのか



子どもの「学びたい」を尊重

何がわかっていて何が困っているか 机間巡視の質 劇的に変化

座席表の変化 教師の基礎基本

令和7年度 5年2組 座席表

先生			黒板			
中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	黒板	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお
中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	黒板	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお
中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	黒板	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお
中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	黒板	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお
中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	黒板	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお

名前のみの基本情報

令和7年度 5年2組 座席表

先生			黒板			
中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	黒板	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお
中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	黒板	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお
中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	黒板	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお
中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	黒板	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお
中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	黒板	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお	中村 竜雄 なかむね りゅうお

一人一人の今が詰まった座席表

- ・ その時間 目指してほしい姿
- ・ 期待する姿 性格や特性
- ・ 必要な支援

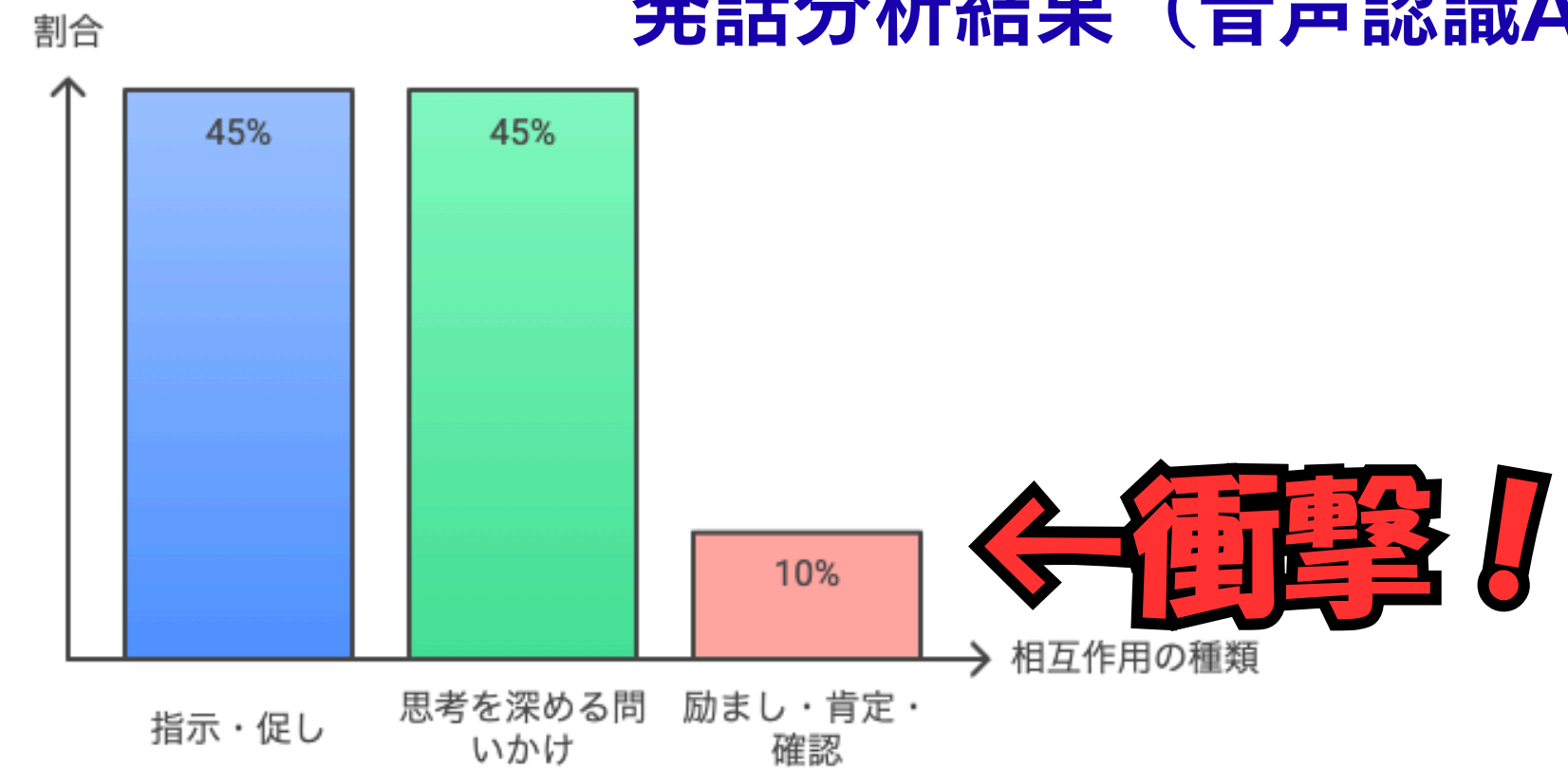
「子ども一人ひとりをよく見て、一人ひとりにあった支援をすることはどんな授業スタイルであれ、教師の基礎基本」

佐藤先生

個別支援の充実 → 新たな課題発見

「一対一の関係が多すぎる」
「もっと協働させたい」
「もっと自走できるのではないか」

発話分析結果（音声認識AI）



Made with Napkin

2学期からの方向転換 個別支援＋協働学習
「個」→「協働・自走」へ！

協働学習への転換

2 学期から 新たな取り組み

週 1 回の「学び合い」の時間を設定 児童と児童を繋ぐ支援や助言

<変化>

- ・ 固定されていた関係 → 必要に応じて学習の相手を選択
- ・ 「〇〇さんに聞いてみたら？」
- ・ 「似た考えだったよ、〇〇さん」



結果： 子ども同士の対話が格段に増加

10月の課題

佐藤先生からの指導を受け、自立した学びへの課題が明確になりました

課題 1

自己調整力を高める

- 学習計画を「意味のあるもの」にするために、自己調整力を高める指導

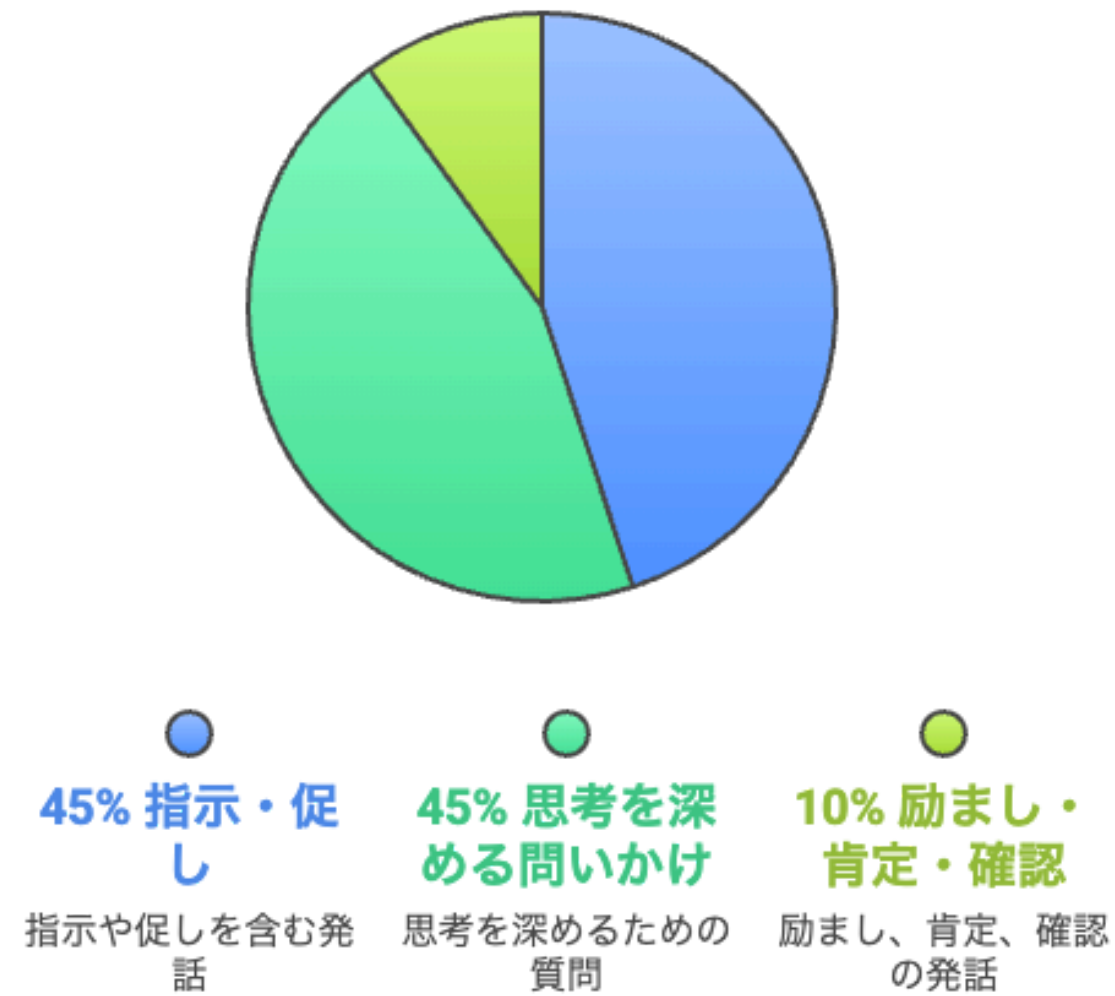
課題 2

教師の発話と支援の質の向上

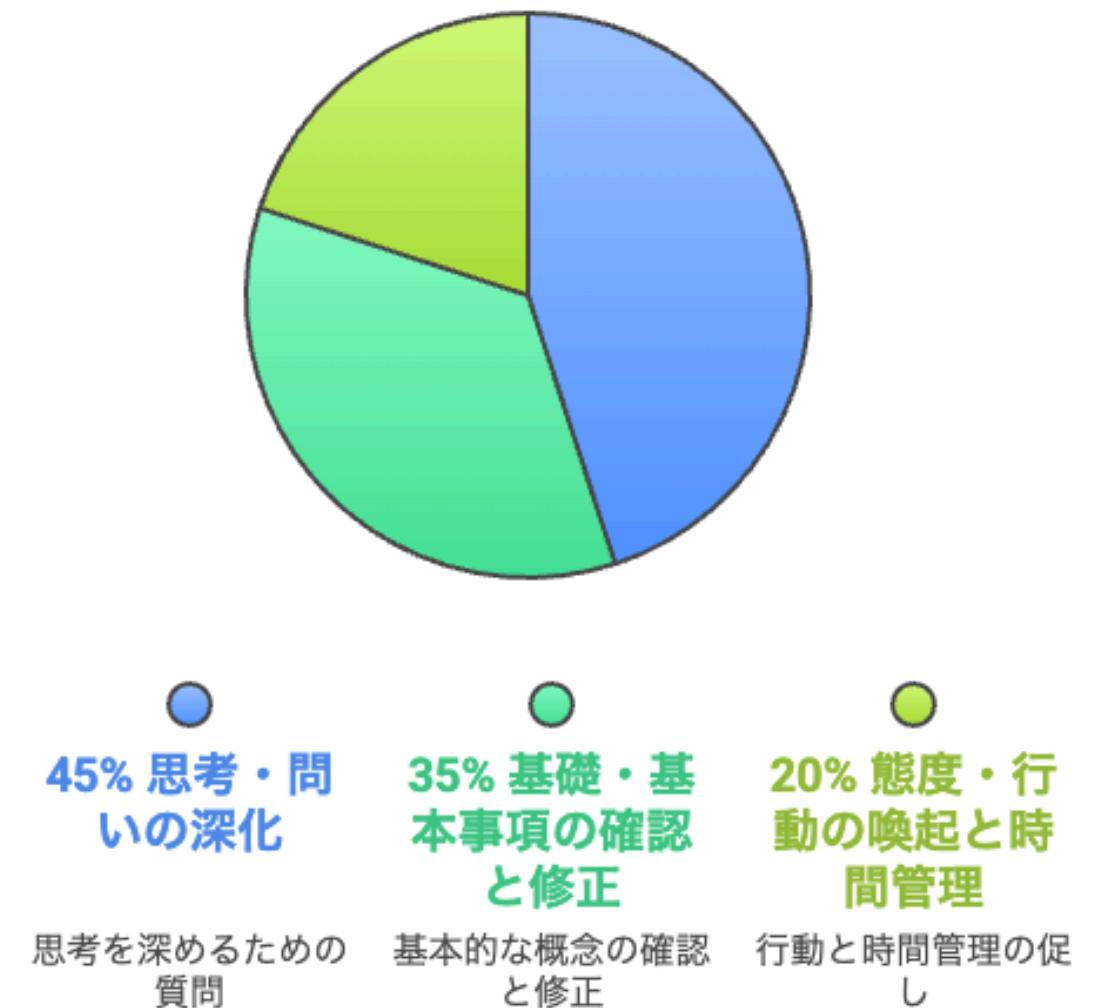
- 発話分析で明らかになった支援の質
- 「自走」するために、教師の支援計画の精度を高める

AIによる発話分析結果と教師の支援の質

7月の発話分析



10月の発話分析



「自走」のために、どこまで支援を減らし、どこに時間をかけるか
教師自身の支援計画や自己調整の精度を高めていく

第3部

子どもたちとの 歩み

YouTube 動画視聴による学習分析の変化

当初

- ・「早く動いている」
- ・「字数が多い」

表面的な観察

6月以降

- ・「自分の意見を堂々と言えている。」
- ・「人の考えを自分に生かしている」
- ・「個人→協働→個人と必要に応じて議論している」
- ・「意見交換で自分の考えが変わっている」

→観察する力の深まり

自立の芽生え

授業中の児童の一言

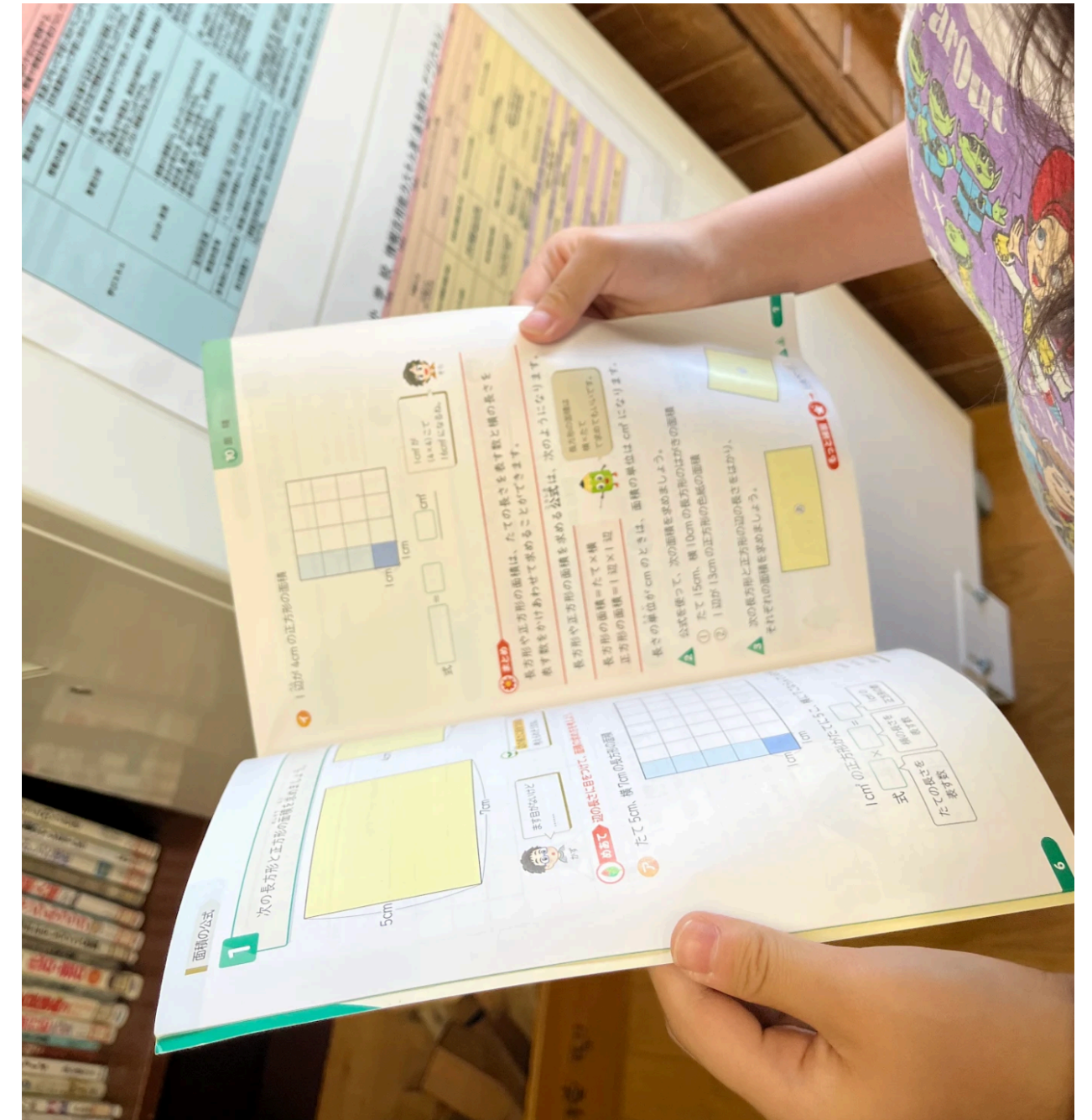
「4年生の教科書を見てみたい！」

この発言の意味

- ・ 自分の学びを客観視
- ・ 必要な資料を自ら選択
- ・ 自立の芽生え

2学期より

- ・ 領域ごとの学習
- ・ 単元を超えた自由進度学習
- ・ 過去の学習内容に デジタル教科書資料より自由にアクセス



友達チェック 学習のコツ

友達チェックの導入

教師チェック+友達チェック

→これくらいでいいか から もっと学びたい！へ

学習のコツ を子どもたちと協働作成

- ・ 今までに学んだ算数の見方考え方を共有
- ・ 学びのつながりを子どもが実感
- ・ 自分なりの学習方法を言語化



生成AIの活用

- ・ わからない問題を自分で解決する手段
AI = 思考の代替 **×** AI = 思考の補助
問いを深めるための壁打ち相手 としての活用
- ・ 質の高いプロンプトの指導
プロンプトを細かくしていく。
自分が知りたいこと、理解したいことを
指示を出せるようにしていく。

AIは、考える力を育てるパートナー

自走を促す「支援」とは

教師と児童の関係性

- 褒められたい感情や不安や心配を理解しつつ、どこまで手を離していくか
- 自己調整力の育成

児童と児童の関係性

- 協働促進の支援
「〇〇さんに聞いてみたら？」
「同じ考えだったよ、〇〇さん」
- 固定された関係だけでなく、必要に応じて学習相手を選択するための環境づくり

教師自身も 自己調整

第4部

終わりに・・・

公開授業で伝えたいこと

自立した学び 授業デザイン

- 子どもが自らの問いを持ち、既習を生かし、仲間と共に深めていく学びのプロセス。
- 環境を整え、問いを促し、子どもの努力を価値づける 伴走者

領域別単元超自由進度学習 系統性

- それぞれが学びを選ぶ用意
- 自分の学びを振り返り、次に繋げる 自己調整力
- 系統生を意識した、単元構成や単元展開

子ども一人ひとりを主語にした授業

- 知識で止まらず、問いを持ち続ける姿
- 協働学習を通じて学びを深める姿
- 生成AIを活用しながら思考を整理する姿

本日の授業への想いと期待

1年間で子どもたちが手に入れた「自ら学ぶ力」
今の現状をありのままに見ていただきたいと思います。

本日見ていただきたい子どもたちの姿

- ・「やってみたい」という内発的な動機を持って学ぶ姿
- ・困ったときに適切な支援要請ができる力
- ・友だちと協働しながら、互いに学び深めていく姿
- ・自分の学習を客観視し、自己調整していく姿

終わりに

「自立した学び」

「一人で学ぶ」のではなく、「自分で判断して学ぶ」こと

教師の役割 教える役割 → 支援する役割

一人ひとりを見取り どれだけ支援するのか、協働を促すか が 鍵

一つの到達点であり、新たなスタート地点

子どもたちの生き生きとした自立的な学びの姿を

ありのままにお見せしたいと思います

ご清聴ありがとうございました。